

第2部 「中国沿海部の投資環境」

講師：住田 安彦
(在北京ジェットロ海外投資アドバイザー)



《最近の外資に対する規制緩和の動き》

11月の初旬に改正された外資企業関連法の改正により、①外貨バランスの規制撤廃、②自主的購買権の拡大（特に原材料、燃料を国内から優先しての購入規制の撤廃）、③販売自主権の付与（輸出義務から奨励に改正）、④監督官庁への生産計画報告が撤廃されました。

その他の動きとしては、小売企業の外資持ち株を65%まで容認され、サービス業も間口も広がりました。これ以外には、WTO加盟もあり、輸入関税がここ数年で9回切り下げられております。92年は平均43%の関税が、現在は17%になっています。特に工業製品では平均15%。これを2005年までには、10%まで下げられます。

《中国沿岸地域各都市の特徴》

大連、北京、天津、青島、上海、深圳の特徴を私の独断と偏見でまとめてみました。

大連の特徴は、長所として日本との繋がりが深いということ、日本企業のプレゼンス、経済的な貢献度が高いということ。短所としては、後背地の経済力が低い、慢性的水不足が挙げられます。

北京の特徴は、長所として行政面での情報入手が早い。大学、研究所が多く人材も豊富であること。短所としては、行政面で硬く融通がきかない、冬の寒さが一番厳しい。

天津の特徴は、長所として上海に次いで伝統的な工業基盤を有している。天津港を有する。北京の大消費地があるということ。短所としては、保守的な土地柄、経済的に地盤沈下現象が起きつつあること。

青島の特徴は、長所としてきれいな都市建設と古い町が融合して、非常にきれいな町になっている。青島港も近い。日本との空の直行便週7便あります。短所として後背地に消費市場がない。進出している企業は地場への内販型の企業というよりは、むしろ日本へ出す輸出型の企業が非常に多い。

上海の特徴は、長所として名実ともに中国の商業、工業の中心。人材も国際感覚に優れている。後背地の経済力が非常に豊かで、どこもそれなりに発展しているということ。短所は、競争が非常に激しい。人件費が高くて流動性が高い。それから、天然資源があまりないということが挙げられ

ます。

深圳の特徴は、長所として香港経済圏である。今や電子部品の製造業が周辺に、日本だけではなく台湾、ヨーロッパ勢などいろいろな企業が出ている。短所としては、サポートインダストリーがない。高温多湿が挙げられます。

いろいろな地域を回って、中小企業が進出する場合には、むしろ開発区の周辺の地域にかえていいところがあるのかと思います。政府も非常に熱心で、労賃も比較的安く、開発区の取引先すぐに納品できるという特徴を持っております。

《中国における企業経営のポイント》

まず、企業立地の目的は輸出か内販か、どこにお客さんがいるかというニーズに合わせて選定すること。それから、設備の導入は中国に適したものをということ。必ずしも最新鋭の機械が必要ではなく、中国に適したモノを使ったものを適度に入れた方が大量生産、小ロットには非常に効力を発揮するという。それから、現地で成功しているところは、派遣されている日本人が権限を持っています。本社の日本に何でも伺いをたてなければならぬということであれば、日本にいて中国の状況把握は難しいので、こういった人を出しています。それから、中国の方も同じ意識を持って働いてもらわなければ士気が上がらないということで、経営の透明化に励んでいるところが非常に多くなっています。中国の方を1000人雇用されているある会社では、仕事は全部現地スタッフに任されています。その代わり、それをフォローするシステムができています。ですから、勝手にものをやっているのではなくて、信頼を持ってもらって、そのうえでやっています。ですから、ソロバンにたとえますと、日本側は1つ上の玉を持っているのだけれども、下の4つは現地に任せて、現地で下の4つのソロバンをはじきなさいというシステムになっています。

これからは人材の育成と経営の現地化を目指していかなければならないと思います。